

「意味」から「ことわざ」が言えたら、ことわざ名人！①

なき ひと
○情けは人のためならず ひと しんせつ 人に親切にするとその人のためにだけでなく まわ まわ 回り回って、

けっきょく 結局は自分にもかえってくる。だから人には親切に ひと しんせつ しなさいということ。

のう たか つめ かく
○能ある鷹は爪を隠す じつりょく さいのう 実力や才能のある者ほど、それをむやみに み 見せびらかそう
とはしない。

つ やま
○ちりも積もれば山となる すこ 少しずつでもこつこつと つづ 続けていけば、 おお 大きな せい 成果につ
ながる。

す もの じょうず
○好きこそ物の上手なれ す 好きなことには しぜん 自然とやる き 気がでてくるから、 じょうず 上手になる
ということ。

とうだい くら
○灯台もと暗し じぶん みぢか 自分の身近なことだと、 とお 遠くのことよりもかえって き 気がつきにくい
というたとえ。

こ たび
○かわいい子には旅をさせよ あま 甘やかして そだ 育てるよりも、 よ 世の中 なか で くる つらくて くる 苦しい
たいけん 体験をさせたほうが、 あい 愛する こ 子どものためになるということ。

した なか れいぎ
○親しき仲にも礼儀あり した どんなに親しい仲でも、 えんりょ 遠慮がなくなると けんか 喧嘩の げんいん 原因にな
るから、それなりの れいぎ 礼儀 まも を守って つ 付き合うべきだ。

と たぬき
○捕らぬ狸の皮算用 かわざんよう 不確かなものをあてにして、 けいかく いろいろと た 計画を立てることのた
とえ。

いぬ ある ぼう あ
○犬も歩けば棒に当たる おも でしゃばると、 さいなん 思いがけない あ 災難に い 遭う み という意味。また、
なに 何もしないより、 おも なんでも ことうん いいからやってみると、 おも 思いがけない ことうん 幸運に め めぐまれる
という意味もある。

のこ もの ふく
○残り物には福がある ひと えら のこ あま いがい 人が選んだあとの、残ったり余ったりしたものに意外によりものがある。

てつ あつ う
○鉄は熱いうちに打て ① かんがえかた じゅうなん わか きた ほう よ 考え方の柔軟な若いうちに鍛えておいた方が良い。②

じょうねつ も こと あ じき のが
情熱を持って事に当たれる時期を逃してはいけない

あたまかく しりかく
○頭隠して尻隠さず あくじ けってん いちぶ すべ 悪事や欠点の一部だけかくして、全てをかくしたつもりにな
っていることのとえ

はやお きんもん とく
○早起きは三文の徳 あさはや お 朝早く起きるとなにかいいことがあるということ。

え か もち
○絵に描いた餅 じっさい やく 実際には役にたたないもののとえ

た とり
○立つ鳥あとをにごさず た さき あとしまつ みぐる 立ち去るときの後始末は、見苦しくないようにきちんとす
るべきだということ。

せんり みち いっぼ
○千里の道も一歩から おお てぢか どんなに大きなものごとでも、まずは手近なところから
はじ 始めていくことでなり と 遂げられるものだ、ということ。

ひと ふ み わ ふ なお
○人の振り見て我が振り直せ たにん おこな み じぶん おこな はんせい わる 他人の行いを見て自分の行いを反省し、悪いところ
はなおしなさいということ。

あくじせんり はし
○悪事千里を走る わる ひょうばん ま ひろ し 悪い評判 やおこないは、あっという間に広く知られてしまうも
のだ、ということ。

おや こころ こし
○親の心子知らず おや こ あいじょう し こ すきかって 親の子どもへの愛情を知らないで、子どもは好き勝手にふる
まうものだとということ。

くんしあや ちかよ
○君子危うきに近寄らず ひと つね しんちょう こうどう かる 立派な人は、常に慎重に行動して、軽はずみなことはしな
いものなので、危険な きけん ことには初めから はじ 近寄らない。 ちかよ

ねこ こばん
○猫に小判 かち 価値のわからない者もの きちように貴重な品しな あたを与えても、何なん やくの役たてにも立

たないことのたとえ。

ももくりさんねんかきはちねん
○桃栗三年柿八年 ものごと なしとげる 物事を成し遂げるまでには時間じかんがかかるものだという事

す かみ ひろ かみ
○捨てる神あれば拾う神あり じぶん みすてるひと 自分を見捨てる人もいれば、意外いがいなところで助けて

ひと くれる人があらわれることもある。世の中よのなかというのは気まぐれきまぐれなものなので、不運
なことやこまったことがあっても、あまりくよくよする必要はない、ということ。

ほとけ かお さんど
○仏の顔も三度まで おんこう ひと なんかい どんなに温厚な人でも、何回もひどいことをされると、最後さいごに
おこりだす は怒りだすということ。

いし うえ さんねん
○石の上にも三年 たいへん つらくて大変なことでも、辛抱しんぼうして続けつづければればいつかは成功せいこうする。

さんにんよ もんじゆ ちえ
○三人寄れば文殊の知恵 ひとり かんがえ うかばない ほんじん さんにん 一人ではよい考えが浮かばない凡人でも、三人

あつまってかんがえれば 集まって考えれば、ちえ うかんで 素晴らしい知恵が浮かんでくるということ。

こういん や
○光陰矢のごとし つきひ 月日がたつのがとても速はやいいことのたとえ。また、時間じかんを無駄むだに

してはいけないという戒いましめめ。

うそ だろぼう はじ
○嘘つきは泥棒の始まり へい気 平気でうそをつくようになると、やがては盗みぬすみも平気です

るようになる。だから嘘うそはついてはいけないということ

か お し
○勝ってかぶとの緒を締めよ ものごと おも どの たとえ物事が思い通りにうまくいっても、気きを緩ゆるめて

はいけないということ。

しゅ まじ あか
○朱に交われば赤くなる ひと つきあう ゆうじん まわ かんきょう 人は付き合う友人や周りの環境かんきょうによって良よくも悪わるくも

なるものだという事。

さる き お
○猿も木から落ちる すぐ じんぶつ どんなに優れた人物でも、失敗しっばいすることはあるというたとえ